

自己点検・自己評価報告書

令和5年3月31日現在



専門
学校

静岡工科自動車大学校

目 次

・1.学校の教育目標	1
・2.本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	2
・3. 評価項目の達成及び取組状況	3
(1). 教育理念・目標	3
・学校の理念・目的・育人人材像は定められているか	
・学校における職業教育の特色は何か	
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	
・学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	
・各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	
(2). 学校運営	4
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
(3). 教育活動	6
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	
・教育理念、育人人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	
・授業評価の実施・評価体制はあるか	
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	
(4). 学修成果	9
・就職率の向上が図られているか	
・資格取得率の向上が図られているか	
・退学率の低減が図られているか	
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	

(5). 学生支援	10
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	
・学生相談に関する体制は整備されているか	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	
・学生の生活環境への支援は行われているか	
・保護者と適切に連携しているか	
・卒業生への支援体制はあるか	
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	
(6). 教育環境	12
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	
・防災に対する体制は整備されているか	
(7). 学生の受入れ募集	13
・学生募集活動は、適正に行われているか	
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
・学納金は妥当なものとなっているか	
(8). 財務	14
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	
・財務について会計監査が適正に行われているか	
・財務情報公開の体制整備はできているか	
(9). 法令等の遵守	15
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	
・自己評価結果を公開しているか	
(10). 社会貢献・地域貢献	16
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	
(11). 国際交流	17
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	
・留学生の学修・生活指導について学内に適切は体制が整備されているか	
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	
・4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	18

1. 学校の教育目標

学校法人 静岡自動車学園 経営方針

技術者の育成をもって地域社会に貢献する

専門学校静岡工科自動車大学校

1 教育理念

社会のニーズにマッチした高いレベルの専門教育と人間性の育成

2 事業ビジョン

- (1) 学生や保護者が「成長」を感じるとともに、「感動」を与え、すべての関係者(業界、企業、高校、地域)から喜ばれるような、質の高い教育サービスを提供する。
- (2) 様々な手法により学校教育活動及びその教育成果を地域社会へ周知し、学校の認知度を高めるとともに、安定した募集活動を展開する。
- (3) 経費、労務管理等においては、健全で効率的な学校経営を行う。
- (4) 将来の発展に向け、グローバルな視野と柔軟な発想により様々な可能性を模索し、時代の要請に合った新しい教育サービスを提供する。

3 事業目標

(1) 教育の質の向上

- ・専門知識、技術及び社会人教育においては、「何を教えた」のではなく、「何ができる(わかる)ようになる」を実践し、創意工夫による質の高い教育を展開する。
- ・産学連携を推進し業界ニーズに合った教育環境(教育カリキュラム、教材、機器、施設設備)を構築する。
- ・研修及び授業研究などの FD 推進により、教職員のスキル(知識、技術、指導力)向上に努める。
- ・資格取得率及び就職率の他、様々な教育活動において高い教育成果を達成する。

(2) 戦略的な募集活動の推進

- ・PDCAのマネジメントサイクルにより常に募集活動を見直し、入学定員を確保する。
- ・企業奨学制度や高専一貫教育など、生徒や保護者、高校、企業が共に喜ぶ活動を推進し、安定した募集活動を展開する。
- ・学校教育活動を広く周知し認知度の向上を図るとともに、「選ばれる学校ブランド」を確立する。

(3) 学校経営の健全化を推進

- ・PDCAのマネジメントサイクルの確実な実行により「ムリ、ムラ、ムダ」を取り除いた効率的かつ生産的な学校経営を行う。
- ・複数校運営を見据えた人材育成(教員、幹部職員)を推進するとともに、優秀な人材を確保する。
- ・学校業務を体系的に整理し、システム化、マニュアル化を推進することにより、業務の効率化を図る。

(4) 新しい教育サービスの企画・立案

- ・「いつでも」、「どこでも」、「誰にでも」提供することができる新たな教育サービスの企画・開発を行う。
- ・生涯教育やリカレント教育など、現在の経営資源を活用した講座の開設について検討する。

数値目標: 完成年度 在籍数 540名 (入学者数 180名)
特定資産繰入額 1億5000万円(3年)
基本金組入前当年度収支差額 1億円

2. 本年度定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 運営目標

(1) 入学募集定員の充足

① 新入生募集定員160名

自動車システム工学科 80 名、自動車整備科 40 名、国際オートメカニク科 40 名
※オープンキャンパス、個別相談会参加者数(留学生を除く)前年比+5%

② 内部進学学生25名

自動車システム工学科(1級、開発)5 名、ボディエンジニア専攻科 20 名
※上級課程の教育成果向上(魅力度UPと授業内容の見える化)(1)入学募集定員の充足

2. 重点実施事項

(1) 教育成果の向上(学校評価向上)

① 資格取得率の目標達成

自動車システム工学科4年 … 一級小型自動車整備士 100%
自動車整備科、自動車システム工学科2年、国際オートメカニク科3年
… 二級(ガソリン・ジーゼル)自動車整備士 100%
自動車システム工学科(ボディコース) … 自動車車体整備士 100%
自動車システム工学科(開発コース) … 3次元 CAD 利用技術者 準1級 100%
その他の資格は前年度以上の合格率、取得率を目指す
※科目担当者による実力の底上げ、授業の効率化、モチベーションの維持、向上

② 退学者の減少(3%以内)

③ 就職斡旋希望者全員内定(内定率100%)

(2) 教職員個々のレベルアップ

① 授業アンケート評価の向上(個人は前年比+1%向上、全体平均 75%以上)

※授業の自己評価と研究授業の活用、リーダーの助言・指導

② 目標資格の取得(資格取得1種目以上)

③ 実力確認試験の点数向上(専門科目 75%以上、業務知識 75%以上)

(3) 学校教育力の向上(教員資質の向上、教育システムの開発…FD 推進)

① 教員能力開発研修の計画及び実施

② 学生指導方法の検証及び指導マニュアルの作成

③ オンライン教育システムの活用及び検証

(4) 学校認知度の向上(選ばれる学校づくり…CR 推進)

① 静岡カーフェスティバルの開催

② 魅力ある教育活動の発信(募集に繋がる広報活動の推進)

SNS を積極的に活用、学校行事やクラブ活動等を配信

③ 中学生への出前授業実施(実施目標数 5 校以上)

(5) 業務の効率化と経費節減

① 業務の効率化、マニュアル化の推進

② 経費節減(見積合わせ等による通常経費-5%)

※EA21活動を推進し、エネルギー削減目標を達成

(6) 浜松工科自動車大学校の開校準備

- ① 各申請手続の遂行(専修学校設置認可、整備士養成施設指定、修学支援制度確認等)
- ② 学則等、内部規定の構築及び教具、校具等の計画的調達
- ③ 入学募集定員 3 学科 75 名(各科 25 名)の充足
※全職員による募集活動の実施

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	経営理念、教育理念を定め、職員に周知徹底をしている。 教育の柱となる3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し、公開している。	4	特になし。
・学校における職業教育の特色は何か	自動車エンジニアとして基礎・基本である知識・技術を確実に身に付けるような教育を豊富な種類の教材と多様な学科構成により行っている。	4	自動車エンジニアとして「安心、安全」を意識した行動が身に付くように教育を徹底していく。
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	中期構想として第10次中期経営計画(2022～2024年度)を策定し計画を推進している。 令和4年度はカーボンニュートラルを目標とした電動車に関するカリキュラムを編成し、学則に反映させた。	4	特になし。
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し学生便覧に掲載している。 また学校情報をしてホームページ上でも公開している。	4	特になし。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	企業と連携した授業やインターンシップにより学生が直接業界ニーズを感じることができている。また育成人材像も毎年見直しを行い、業界ニーズに合致させている。	3	特になし。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学校の理念・目的・目標については、創立時の精神を受け継ぎ、時代や業界ニーズに合った人材育成をするための将来構想である第10次中期経営計画を立案し、学校運営を行っている。
令和4年度はカーボンニュートラルを目標とした電動車に関するカリキュラムを編成し、学則に反映させた。
また、3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定し、育成人材像を軸とした教育内容、募集活動の方針を確立するとともに、PDCA展開による教育の質向上に取り組んでいる。
上記理由により、評価項目については概ね達成できていると評価している。

② 特記事項

3年毎に中期経営計画を立案・実行している。
3つのポリシー(DP、CP、AP)を策定。
参考資料No. (1 令和4年度静岡工科自動車大学校組織図、2 令和4年度 目標と方針、4 第10次中期経営計画書、6 学生便覧、57 情報公開資料(学校情報)、(学校ホームページ)

最終更新日付	令和5年3月1日	記載責任者	岡部 剛
--------	----------	-------	------

(2). 学校運営

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	毎年度、目標と方針を策定し、職員全員に周知するとともに、各課においても目標と方針に沿った具体的な目標を定め、活動している。	4	自動車業界の環境が大きく変化しており、その影響が学校運営にも及んでいる。経営環境の変化に柔軟に対応できるよう情報収集、問題の共有化を推進したい。
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	中期経営計画達成のため、毎年度の事業計画及び予算計画を策定している。令和5年度より複数校の運営になるため、両校の運営が円滑に進むよう事業計画を立案した。	4	特になし
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか 有効に機能しているか	毎年運営組織・分掌を明示した組織図を作成し、職員に周知するとともに、意思決定機能も明確にしている。組織運営や意思決定においてはリーダーの職責が増している。	3	メンバーによる報連相が時々リーダーを飛び越えることが散見されるので、都度指導していく。
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	服務規程により人事、給与については整備されている。令和3年度より人事評価システムを改定し、職務基準の見直し及び人事評価の公開を行っているが、考課者、被考課者とも業務や目標に対する意識の向上が見られるようになった。	4	人事評価システムの改定は概ね良い方向に機能している。今後さらに検証を重ね、個人目標と運営目標のベクトルを合致させるとともに教職員のモチベーションの維持向上に努めたい。
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	組織整備については教務課、入試・進路課、総務課の幹部職員により協議、調整を図り、決定している。	4	特になし
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	法令順守については個人情報管理等の規程を制定し運用している。また、教職員業務対応手順を作成し、苦情等対応も含めた体制を整備している。	3	運用面において職員の意識やモラルに問題が見られるケースがあるため事例研究に関する研修会を計画したい。
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	文部科学省の情報公開ガイドラインに沿った学校情報をホームページ上に公開している。その他 SNS なども活用し、ほぼ毎日教育活動を発信している。	4	特になし
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	教務、募集、経理、勤務等を統括したシステムを運用しており、業務の効率化が図られている。また Google Workspace を活用した教育システムが機能しつつある。	4	情報システムのトラブルに対応できる職員が少ないため、対応できる職員の育成を行っていく。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

学校運営に関する人事、教務に関する規程等、組織の整備は整っており、毎年運営方針を定め、職員に周知徹底を図っている。また、令和3年度より人事評価システムを改定し、職務基準の見直し及び評価の公開を実施しているが、概ね良好に機能している。

意思決定機能は組織図上明確となっており、コミュニケーション不足(報・連・相)が生じた場合に都度修正、指導を行っている。

コンプライアンスにおいては職員個々の認識に差があるが、当校の教職員として相応しい人格の形成を図りたい。

② 特記事項

・第10次中期経営計画(2022～2024)を策定し運用。

・人事評価システムによる評価の公開を実施。

・FD推進、CR推進事業を組織化し、令和4年度の主な事業として、FD推進が主体となり1級整備士試験動画コンテンツを作成、CR推進が主体となり静岡カーフェスティバル2022を開催した。

参考資料No. (1 令和4年度静岡工科自動車大学校組織図、2 令和4年度 目標と方針、3 各課の目標と方針(教務・入試進路・総務)、4 第10次中期経営計画書、5 令和4年度事業計画案、7 チャレンジシート・考課表、9 学務システム管理要領、16 会議一覧、57 情報公開資料(学校情報)、59CD(規程集、個人情報保護規程、情報公開に関する内規、議事録)

最終更新日付	令和5年3月1日	記載責任者	岡部 剛
--------	----------	-------	------

(3). 教育活動

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	教育課程の編成については、「教育課程編成に関する規程」を定め、教育課程を編成及び実施している。	4	定期的に見直しを行っており、特に問題はないと感じている。
・教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	教育到達レベルと学習時間をシラバスに明記し HP 上でも公開している。現在の学習時間は国土交通省が定める基準並みとしてあるため、限られた時間の中で最大限の効果が得られるよう活動を行っている。	4	コロナ禍による社会環境の変化に見舞われたが、IT ツールを活用し柔軟に対応するスキルを向上させることができた。今後は、アフターコロナに向けた対応が必要であると考えられる(Web から対面への移行)。
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	各学科の目標達成に向けカリキュラムが構成されている。国土交通省が定める指定基準に沿って、学期末ごとに全職員で見直しを行い、業界との格差が発生しないようにしている。	4	令和3年度から国際オートメック科のカリキュラムが変更となり、運用後の検証を行っている。また、システム工学科3～4年のカリキュラムが変更となり、今後、検証が必要となる。
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	教務目標に社会人として必要な人間性(社会人基礎力)を身に付けることを目標としており、担任を中心に指導を実施している。学校関係者評価委員会の外部委員からの意見についても可能な限り導入している。	3	キャリア教育を行う上で職員のスキルアップが課題となっている。令和4年度より発足した新たな研修制度に従い各種研修を受講しているが、成果が出るのは今後のことと考えられる。
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	企業及び業界団体から委員を迎えカリキュラム編成委員会を開催している(5月、8月の2回)その中で、シラバスの見直しを行った。	4	今後も定期的に見直しを行い、企業ニーズに合った教育になるよう改善したい。また企業からの意見により実施している整備作業アンケートの結果を踏まえ、授業に反映していきたい。
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	すべての科においてインターンシップを実施している。また、企業と連携し1年生に対しては自動車点検実習、2年生に対しては、大型自動車実習を実施しておりシラバスにも明記している。	4	企業側も学校教育に協力的であり、特に問題はないと感じている。
・授業評価の実施・評価体制はあるか	授業評価は年2回実施しており、各期末に全体の評価結果を公開している。また、評価の低い授業担当者には教務課長が個人面談を実施し授業のアドバイスをを行うことで改善を図っている。	4	アンケート結果の目標を76%以上とし、個人の目標に結び付け評価している。目標は上回っているが、昨年度よりも低下している。対面授業の割合が増加していることが一因と考えられ、今後の対応策を考える必要がある。(1・2学期平均 79.37%)
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	学校関係者評価委員会により評価を行っている。	4	学校関係者評価委員会にて評価をいただいているので、特に課題を感じない。

・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	成績評価基準は学校側の主導により明確に定めてあり、学生には学生便覧(教務規定掲載)を全員に配布し周知徹底している。	4	学生便覧(教務規定掲載)に明記されており、特に問題はないと感じている。
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	整備士資格以外はカリキュラム上には定められていないが、放課後等を利用し、資格取得のサポートをしている。必須資格と選択資格に分け学生の能力・ニーズにより選択できる体制をとっている。	3	コロナ禍で中止となっていた資格試験も順次再開されつつあり、順調に良い成績を修めることができている。学内実施の資格講習もリモート授業やITツールを活用しながら効率良く教育を進めている。
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	第一種養成施設の指定基準に準拠する必要があるため資格や経験年数及び学歴等を満たした教員を採用している。	3	一級自動車整備士を取得している職員の割合は増加しているが、専門学校教員としてのキャリアが短い職員が増えているように思える。定着率を高めるような対応策が必要だと考えられる。
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	自動車整備業界からだけでなく、自動車製造業からの職員を採用することができ、より実践的な教育を提供する組織とすることができた。	3	社会の慢性的な人材不足に伴い、本校においても人材確保が困難な状況である。今後は他の企業とも連携し優れた教職員の確保に努めたい。
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	自動車整備振興会による新技術研修は毎年全教員が受講している。また、今年度も年間を通して指導力向上研修を計画し実践した。	3	FD推進会議を中心に計画し、昨年度までと比較し研修の回数が増加している。研修内容も多岐に渡り、また、全職員が受講することで情報の共有を図ることができた。
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	職員に対し職務要件に応じた本部研修を実施している。その他の研修は個人で希望すれば研修に参加させている。	4	令和3年度に定められた研修制度に従い、本年度は経験年数の短い職員を対象として研修を受講してもらったが、予定していた研修をすべて受講することができた。研修後は研修発表を実施し、他の職員と研修内容を共有することができた。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

キャリア教育を行う上で職員のスキルアップが課題となっていたが、新設の研修制度に従いスキルアップを図る環境へ進むことができた。入学生の基礎学力低下が顕著であることは変わらず、業界ニーズレベルまで到達させることが年々困難となっている。今後は学生の一般常識の知識習得を図り、組織的・計画的なキャリア教育により企業ニーズに対応した教育活動を推進したい。概ね良い自己評価であるが、教育活動は学校運営の柱であり、学校評価に繋がる最も重要なことと位置づけているため、今後も教育活動の充実を図ることが大切であると考えます。

② 特記事項

令和4年度 社会人基礎力評価表を全学生に配布し実施。
令和4年度 整備作業アンケートを全学生に配布し実施。
令和4年度 カリキュラム編成委員会編成。年2回の委員会を開催。
企業から社員派遣1名（2021.4～2022.3）令和4年度は実績なし

参考資料No. (2 令和4年度 目標と方針、3 各課の目標と方針(教務、入試・進路、総務、FD・CR 推進)、4 中期経営計画書、6 学生便覧、8 教職員の増減、10 資格試験結果一覧・整備士試験合格率推移、11 企業ニーズ調査資料、12 学則変更推移、14 授業研究報告書、15 授業アンケート結果 1期、2期分、18 研修計画・実績、22 インターンシップ実績報告、45 専修学校設置基準、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、53 カリキュラム編成委員会議事録、54 企業と連携した実習実績、57 情報公開資料(学校情報)、58CD(規程集))

最終更新日付	令和5年3月1日	記載責任者	渥美智弘
--------	----------	-------	------

(4). 学修成果

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・就職率の向上が図られているか	無料職業紹介所の届け出を行い、求職票を提出した学生を対象に就職斡旋を行っている。コロナ禍でメーカーガイダンスの実施は見送ったが、各企業のガイダンスは例年通り実施し、面接指導や書類作成に関する指導は担任がきめ細かく行い、就職率の向上を図っている。	4	一部の企業に応募が偏る傾向が見られる。採用担当者の人柄やガイダンスの内容といった一時的な要素に左右されることが大きいと感じる。学校としては客観的な企業の情報を発信することで、多数の企業に興味を持ってもらえるよう指導している。
・資格取得率の向上が図られているか	コロナ禍で登校を止める中、リモートで昨年度と同様に資格試験対策を行ったが本年度は例年と比べ合格率を下げてしまった。	3	学生の資質を見極めながら、成果の上がる学習方法を常に検討し、合格率の向上を目指す。
・退学率の低減が図られているか	年度初めに退学者の目標値を定め、各月の職員会議で状況を示し、組織的、計画的に退学者の減少に努めた。	3	コロナ禍の影響でアルバイトができず、経済的に困窮する留学生が増え、授業料未納のため出席停止となり、意欲をなくす学生が多数出た。留学生に対する同窓会の奨学金制度適用拡大を図ったが、さらなる支援制度の開拓が必要である。
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	企業との情報交換により把握するよう努めている。卒業生が技能コンクールの全国大会で活躍した情報を収集している。	3	コロナ禍ではあるが、今年度は企業との交流の機会が少しずつ増え、入手できる情報が増加した。本年度は各企業内で技術大会なども行われ卒業生の活躍を見学することができた。ガイダンスの機会に採用担当者へ確認すると、留学生の活躍についての話が増えてきた。
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	企業の採用担当者や企業実習の担当者等に対して、学生時代に学ばせたい事を聞いてみると、知識や技術の習得以外に、人と人とのコミュニケーションを選択する方が多い。一方、本校の卒業生はコミュニケーションについては概ね良い返答をいただいている。	3	学生に対しては、自動車整備業や自動車製造業はすべてお客様あつての業種であることを理解してもらい、適正なお客様対応ができる接客授業を行い育成していく。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

自動車整備業界はコロナ禍の影響により半導体不足が続いており、自動車生産が需要に追いついていないため新車販売が低迷している。そのため、既存車両の整備台数が増えており自動車整備士の売り手市場が続き採用内定を得やすい状況が続いているが、この環境に油断せず今後も継続して成果を出していく。退学率については、修学意識や学力の低い一部の留学生が問題となった。そうした学生が増えているという現実を承知し、早期指導を心掛けていく。資格取得率は効率的な資格試験対策授業のやり方を毎年研究してより高い実績を求めたい。

② 特記事項

特になし。
参考資料No. (9 学務システム管理要領、10 資格試験結果一覧・整備士試験合格率推移、11 企業ニーズ調査資料、19 科別進路状況、就職成果、20 退学者推移、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程、53 カリキュラム編成委員会議事録)

最終更新日付

令和5年2月28日

記載責任者

浅田 研二

(5). 学生支援

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	本校では無料職業紹介所を開設し、職業指導の基本方針、対策、情報収集、求人開拓のための企業訪問等を積極的に展開し多数の求人獲得に努力している。 導入から6年目となった電子求人システムへの完全移行も順調に進めることができた。	4	企業により求人システムへの入力、利用法などシステムの理解度に差があるが、問い合わせに対し柔軟に対応できている。
・学生相談に関する体制は整備されているか	学生からの相談(ハラスメント等を含む)は、主にクラス担任が対応し、それを主任がカバーする。また、女性教員や保健室、FD・CR 室や入試・進路課など気軽に相談できる窓口も用意され学生の相談体制も整っている。	4	学生が相談できる仕組みは整っている。次の課題は様々な相談に対応できる職員を増やすことである。相談できるスキルアップだけでなく、相談しやすいと感じさせることができる職員になる必要があるため各種研修の参加や職場内研修などで対応している。
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	高等教育修学支援制度による入学金、授業料の減免や免除、下宿生への支援金供与、日本学生支援機構等の奨学金制度、本校独自の企業奨学・推薦制度等、学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しており専門学校評価基準を十分に満たしている。	4	各種減免により経済的負担は軽減される傾向にある。さらに、その各種減免と併用できる企業奨学金の利用により多くの学生が経済的負担の軽減を実感していると感じる。しかし、家庭により経済状況が異なるため、きめ細かい対応が必要になっている。
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	常勤の看護師の対応により学生の健康管理は適切に実施されている。学生の登校状況、保健室の利用(傷病の申し出)状況、薬の使用状況は毎日管理され、心の健康(メンタル相談)にも配慮している。	3	看護師が勤務していない時間におけるの対応に課題があるが、総務課と担任(担当)が対応し看護師の不在時間をカバーしている。
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	クラブ活動などの課外活動は授業時間数が多い中でも支援できる体制になっているが、昨年度に続き今年度もコロナウイルスの感染拡大の影響により活動計画に沿った一部の運営ができていない。	3	学生に対してのクラブ活動支援は対面で活動することが前提となっていたが、このような環境下でも参加し楽しむことができる工夫が求められている。
・学生の生活環境への支援は行われているか	1人暮らしの補助により下宿生には1万円/月の支援金を供与している。(留学生を除く)	4	1人暮らしの補助、通学費支援により募集活動に効果を発揮している。本年度募集から在学中の支援となる交通費支援ではなく、保護者が期待する入学前の支援となる入学金減免(半額)に変更した。
・保護者と適切に連携しているか	例年、後援会総会後に担任と保護者との個別面談を実施している。また、電話連絡等により保護者に学生状況の報告を行い、相互理解に努めている。	4	実現可能な範囲において十分な連携が図られており、特に課題を感じていない。

・卒業生への支援体制はあるか	卒業後の状況についてはインターンシップの訪問に絡めて確認し、フォローアップに努めている。特に整備士資格の未取得者には資格取得の支援を強力に行っている。	4	卒業後、数年経った離職者に対する就職支援も行っている。少数ではあるが再就職に結びついている。
・社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	企業ニーズの聞き取りを行い、それをカリキュラムに反映させている。職業実践専門課程として企業に授業を実施していただき企業ニーズを直接学生に伝える場も用意している。	4	業界関係者が気軽に企業ニーズを発することができる体制(HP等)を入試・進路課を中心に整えたい。
・高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	高校に出向いて、自動車整備士の仕事や整備業界の紹介や自動車整備の模擬授業を展開している。また、「進路講話」「専門学校とは」「面接指導」などの各種指導を担当し高等学校のキャリア教育に積極的に参画している。	4	各種の講義、講話の内容を継続的に改善し、さらに効果と魅力がある内容にしたい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

高等教育修学支援制度、日本学生支援機構等の奨学金制度、特待生授業料減免、下宿支援金、通学費サポート、企業奨学・推薦制度等により、学生の経済的側面に対する支援が確実に整備され、有効に機能している。また、学生の様々な悩みを早期の段階で察知し、励ましや助言、指導を行う教職員個々の指導力(カウンセリング技術など)は現状でも十分に機能しているが、全学生とその保護者が満足できるレベルに向上させる努力が必要である。卒業生に対する支援については、HPを入口に数人ではあるが、毎年再就職に結びついている。就職支援体制については、学生に多くの情報をリアルタイムに公開するための電子求人システムへの完全移行が完成しつつある。電子的な履歴書が一般的になったことで、手書きの履歴書を要求する企業が特別に見えてしまうという状況を全企業に伝えたい。

② 特記事項

特になし

参考資料No. (1 静岡工科自動車大学校組織図、6 学生便覧、11 企業ニーズ調査資料、19 科別進路状況、就職成果、21 指導要録(副)、24 令和4年度 行事予定表、25 入学に関する諸連絡、26 学校医委嘱受諾書、27 クラブ活動実績、28 合格者の手引き、29 入寮案内、学生さんのための下宿・アパート情報、30 保護者参観会実施要領、保護者相談会実施要領、31 同窓会会則、32 再就職斡旋リスト、38 学生募集要項、52 教育課程編成に関する規程、カリキュラム編成委員会規程)

最終更新日付	令和5年3月1日	記載責任者	廣石 逸夫
--------	----------	-------	-------

(6). 教育環境

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	第一種養成施設の指定基準を満たし有効に活用していると判断する。教育用機器・教材に関しては中期経営計画に沿って年度毎計画的に購入している。今年度はテストベンチエンジン3台、灯火ボードパネル13台を整備した。	3	施設・設備の規模や整備内容は充実しているが、経年劣化のため修繕を要する場所が次々に現れ、その対応に時間と費用がかかっている。
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制を整備しているか	教育課程表に定められたインターンシップは実施したものの、任意で行うものはコロナ禍により中止した。海外研修は中止したが国内研修を実施した。	3	コロナ禍においては学生がリモートで受講(参加)できるリモート授業教材の開拓を今後も推進したい。
・防災に対する体制は整備されているか	令和4年に災害対策対応マニュアルを改訂した。緊急時の教職員及び学生への連絡、安否確認体制についてグーグルを利用し確立した。安否確認等訓練を複数回実施、習熟度を高めた。	4	学生の安否確認に使用しているグーグルフォームの取り扱いについて、一部の職員に不慣れな場合が見られ、習熟が必要である。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

教育環境に関しては、教育機関としての長い歴史の蓄積で十分な規模と内容が整っている一方で、IT、デジタル、AIと言った今後発展するものに対してはやや追い付いていない面があり、今後の課題と言える。

② 特記事項

3年毎の中期経営計画に従い、計画的に教育環境を整備している。

参考資料No. (4 中期経営計画書、22 インターンシップ実績報告、23 令和4年度 学外実習等、33 消防計画、36 避難訓練実施要領、防災訓練実施要領、54 企業と連携した実習実績、59CD(教室及び実習場状況一覧、教材・機器一覧))

最終更新日付	令和5年2月28日	記載責任者	浅田 研二
--------	-----------	-------	-------

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学生募集活動は、適正に行われているか	EV シフトされる業界を伝え、今後必要となる一級整備士へのシフトが完成した。また、利用者数が安定している企業推薦制度もニーズに合わせた企業への提案も行っている。また、中学生への働き掛けも継続している。	3	整備士希望者拡大に向けた広報活動と新設される浜松工科自動車大学の募集をバランスよく行う必要がある。エリア特性を理解し、両校を定員充足するための様々な活動を計画どおり展開したい。
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	資格取得状況や就職状況は志願者が専門学校を選択する上で、大変重要な判断材料になる。静岡県を中心とした学生募集活動において数値化した実績公表で教育活動の信頼性を高めるとともに、志願者や各高等学校への職員による説明やホームページ上で情報を公開している。	4	ホームページの「活動紹介」を利用し教育活動を分かりやすく伝えている。本校の各種情報も継続的に発信したい。
・学納金は妥当なものとなっているか	教育内容や他校の状況等を勘案して学納金額の見直しを行っている	4	入学金、授業料、各種諸費用について見直しを行い学納金を改定済み。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

本年度は対面での活動が増えイベントへの参加人数がほぼ例年通りに戻つつあるが、留学生については日本語学校卒業者が非常に少なく、募集が厳しい年であった。車のEV化や自動化で、今後求められる一級自動車整備士の育成を基軸とした教育活動に加え、基礎基本を身につけた二級自動車整備士の輩出が本校の役割と考えている。自動車に興味を持ち、カーエンジニアを目指すことのできる生徒だけに出席させる受け身の募集活動では今後の定員確保できない。そこで、中学生、高校1年生に対し従来からのカーエンジニアの魅力と先進自動車に対応できるエンジニアになれることの可能性と重要性を理解してもらい、カーエンジニアを希望してもらえる先を見た活動を徹底したいと思う。

② 特記事項

特になし。

参考資料No. (37 学校パンフレット、38 学生募集要項、392,023 年度入試応募者数一覧、40 入学選考推移、41 学納金推移一覧表、54 企業と連携した実習実績、57 情報公開資料(学校情報)、59CD(学校ホームページ、シラバス))

最終更新日付	令和5年3月1日	記載責任者	廣石 逸夫
--------	----------	-------	-------

(8). 財務

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	近年施設老朽化に伴う修繕費等が増加基調にあるが経費削減等に取り組み帰属収入の確保に努めている。	3	中長期的には引き続き経費節減。
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3カ年毎の中期経営計画に基づき年度の事業計画が作成されている。予算は事業計画による業務目標を達成させるべく適正に決められ、その執行は有効性と妥当性を考慮して厳正に行われている。	4	計画的な予算の立案を実施しているが、光熱費の急激な値上げにより大幅な補正の変更をせざるを得ない状況になっている。
・財務について会計監査が適正に行われているか	公認会計士により毎年「当年度事務処理状況調査及び財務諸表各項目」について適正に監査が行われている。	4	適正に行われている。
・財務情報公開の体制整備はできているか	私立学校法に基づき制定された「情報公開に関する内規」により財務情報公開の体制は整えられている。	4	特に問題ないため継続したい。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

4年制課程の入学生が増加基調にあったが次年度においては浜松工科開校に伴い、入学生数が前年度を下回っている。また、留学生の入学者数においてもコロナの影響により一時的減少に陥るが来年度以降においては回復の兆しがある。収益環境が厳しくなってきたが、引き続き経費削減等の経営努力が必要である。

② 特記事項

特になし。

参考資料No. (42 令和1年～令和3年度 主要財務数値、43 令達予算書、補正予算書、44 会計監査計画書、57 情報公開資料 (学校情報)、59CD (学校ホームページ、情報公開に関する内規))

最終更新日付	令和5年2月27日	記載責任者	伏見 泰典
--------	-----------	-------	-------

(9). 法令等の遵守

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令、設置基準や監督官庁の許認可、届出等定められていることが適正に遵守されている。 年1回、法人本部による業務監査及び監事による業務監査を行い、改善・指摘事項については改善策を講じ対応している。	4	特になし。
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	個人情報保護規程を定め、個人情報が漏洩しないようにしている。また業務委託業者とは機密保持契約を締結している。また、年1回、個人情報保護監査責任者による内部監査を実施している。	4	特になし。
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	自己点検・評価は、毎年見直しを行い、年度末には所属長による改善指示をしており、学校関係者評価による検証も行っている。 3年前に JAMCA による第三者評価を受審し外部からの評価も実施した。	4	特になし。
・自己評価結果を公開しているか	自己点検・評価の公開についてはホームページ等で公開している。	4	特になし。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

法令、専修学校設置基準等は、年1回、法人本部による業務監査及び監事による業務監査を行い、改善・指摘事項については改善策を講じ対応している。

個人情報保護の管理については、学生に対する職員室へ入室範囲制限の実施、職員回覧物の個人情報が見えないような工夫の実施、パソコンのLANへの接続制限や個人情報の学外持ち出しの制限など、みだりに個人情報が漏れ出ることを防いでいる。

自己点検・評価を毎年実施しており、PDCA サイクルによる教育活動の改善が見られる。また学校関係者評価も継続して実施しており、教育成果にもその効果が表れており、良い方向に進んでいると評価する。なお、令和元年度には JAMCA 第三者評価を受審しており、教育の質向上の取り組みについて積極的に取り組んでいる。

② 特記事項

- ・毎年、法人本部による業務内部監査及び監事による内部監査を実施。
 - ・自己点検評価の他、学校関係者評価を毎年1回(5月)に実施。令和元年度には JAMCA 第三者評価を受審。
 - ・学校情報は学校ホームページに掲載し、最新の情報を公開。
- 参考資料No. (57 情報公開資料(学校情報)、59CD(学校ホームページ、個人情報保護規程、情報公開に関する内規))

最終更新日付	令和5年3月1日	記載責任者	岡部 剛
--------	----------	-------	------

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	コロナ禍ではあるが感染対策を行い中学生整備体験、出張授業など少しずつ実施することができた。 環境問題への取り組みとして、エコアクション21の認証を取得し継続的かつ積極的な活動に取り組んでいる。	4	社会人講座は地域貢献・社会貢献の一環として社会ニーズを捉え積極的に取り組んでいきたい。
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	本年度はコロナ禍で他団体主催のボランティアには参加しなかったが、学生自治活動主催で通学路清掃や交通立哨、などを行っている。	4	コロナ禍で今までのような活動は実施しにくくなっているが、状況に応じたボランティア活動ができる様を検討し実施したい。
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	自動車車体整備技術講習を実施した。	4	依頼があった講習・講座のみ実施した。これ以上増やすことは本来の教育業務に支障が出る恐れがあるので、次年度も今年と同じ実施要領とする。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

- ・学校の施設貸出等は地域や業界への貢献の一環として積極的に行っている。また、本年度はコロナ禍での感染対策をしたうえで中学生職場体験を行った。受け入れた生徒の数は昨年と比較して1.5倍以上に増加した。
- ・近隣の駅から本校までの通学路の清掃活動を奨励し学生もそれに自主的に参加した。今後も時代の要請に合った活動を継続していきたい。
- ・宮前地区(学校所在地)の清掃活動へも参加した。
- ・業界に対する教育訓練は要望に応じ実施しているが、公共職業訓練等は訓練内容、時間、人的資源がマッチせず実施には至っていない。

② 特記事項

中学生整備体験受入れ延べ9校80名
 2010.9.7 エコアクション21認証取得 2022.9.7 更新 2022.7.14 審査実施(書類、現地調査)
 2022.6.19 宮前地区清掃活動に参加
 ドミトリー工科生 8名、職員 1名 参加
 2022.12.19 通学路の清掃活動に参加
 自治会本部役員 10名、職員 4名 参加
 参考資料No. (34EA21手順書(バッテリー、ガス溶接)、48 生涯学習資料、49 附帯教育事業資料、50 EA21活動実績、51 ボランティア活動資料)

最終更新日付	令和5年2月26日	記載責任者	谷河 弘章
--------	-----------	-------	-------

(11). 国際交流

評価項目	具体的取組	評価	課題と改善策
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	業界の慢性的な整備士不足に対応するため、令和6年度より入学生定員を60人に増員して受け入れ拡大を実施していく。	4	・学費や生活費をアルバイトで稼ぎ通学している留学生が多く、昨年度に引き続きコロナ禍でアルバイトが激減したため授業料の支払いに苦勞する学生が多く見られた。留学生も対象となる奨学金制度の開拓が必要である。 ・コロナによる留学生の入国規制が緩和されたため、日本語学校に留学生が増加し始めている。
・留学生の受入れ・派遣・在籍管理等において適切な手続きがとられているか	留学生の在籍管理等は適切に行われており、本年度も名古屋入国管理局から「在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程」として適正校認定された。	4	ビザの更新、就労ビザへの変更許可や休退学があった場合の届け出などに学校として積極的に関わり、きちんと在籍管理を行った。
・留学生の学修・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	学校組織図に留学生担当生活指導担当を明記し、学修・生活指導の体制を整えている。日常のことはクラス担任が対応し、必要に応じて科のリーダーや教務課長が対応する。	3	課税証明書の確認を行うことで入管法施行規則に定められた週当たり28時間のアルバイト時間を守らせるよう工夫している。
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	自動車整備系学科では卒業時に整備士の国家試験を受験している。産能大、放送大とのダブルスクールを取り入れている。	3	1級試験合格率の向上が続いている。産能大は少数ではあるが順調に卒業者が出ている。また放送大学の在校生も増えた。

適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 評価項目総括

3年目を迎えたコロナ禍により日本語学校を卒業する(した)留学生が激減した。この影響が令和5年度の本校入学生数に影響した。令和4年度入学定員を60人→40人に減員し、世相に合った学校運営に努めたが、予想以上に入学生数が減少したが、令和4年度に留学生の入国規制が緩和され入学生数が増加したこのため、令和6年度入学生数は増加することが予想されるため、令和6年度入学定員を40人→60人に増員し、留学生の科の運営を強化していく。

② 特記事項

令和4年度 留学生在籍数 167名(ミャンマー、ベトナム、インドネシア、中国、ネパール、スリランカ、韓国、バングラデシュ)
令和4年4月～国際オートメカニック科 定員減(60→40名) 令和6年4月～国際オートメカニック科 定員増(40→60名)、

在籍管理が適切に行われている専修学校専門課程(名古屋入国管理局)
参考資料No. (1 静岡工科自動車大学校組織図、6 学生便覧、55 留学生在籍管理

最終更新日付	令和5年2月28日	記載責任者	浅田 研二
--------	-----------	-------	-------

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和4年度は、新型コロナウイルスの変異株による感染が継続して続いていたため、対面授業を基本としながらも、感染状況に応じて学科授業はリモート、実習授業は対面授業とするなど状況に応じリモート授業の割合を増減しながら教育活動を行った。

学生授業アンケートでは前年度の評価を下回ったものの、全体目標である A 項目76%を上回っており、教育の質は維持できていると評価している。ただし一部の職員において目標に届いていない状況であるため、本人の自覚を促すとともにその要因を分析し、全職員が全体目標を達成するよう働きかけていきたい。

令和4年度はコロナ禍により中止していた行事を再開し、自動車システム工学科の3年生、4年生が国内にて研修旅行を実施、2年生は安全運転講習会を再開、その他ボディエンジニアコースの学生は「TOKYO AUTO SALON 2023」にカスタムカーを出展し、学生自らが車両の説明を行うなど、コロナ禍前に行っていた行事を概ね実施することができた。

また主な教育成果である資格試験においては、目標とする合格率を概ね達成しており、教職員の努力の成果が数字となって表れている。次年度以降も教育内容に工夫や改善を加え、良い成果を上げることを期待する。

令和3年度に設置した「FD 推進」の事業では、前年度構築した教員研修制度を計画通り実施、また1級自動車整備士試験対策用の動画コンテンツを全職員で作成するなど、教育の質向上に向けた具体的な対策を実行することができた。

今後もこのような活動を継続し、すべての教員が自らのスキルを向上させ、効率的で成果の上がる教育活動となるよう推進していく。

「CR 推進」では、コロナ禍により実施を見送っていた「静岡カーフェスティバル」を3年ぶりに開催した。コロナ禍ということもあり、前回開催時よりも若干規模は縮小したが、多くの企業や業界団体からの支援により、約5000名が来場するなど、盛況なイベントとすることができた。これらの活動はクルマ業界や地域に貢献するとともに、将来の自動車エンジニアを確保するためにも必要な活動であるため、次年度以降も継続して実施したい。

募集活動では、令和5年度開校予定の浜松工科自動車大学校を合わせ2校の募集活動を行った。コロナ禍ではあったがオープンキャンパスなどの活動を予定通り実施し、参加者数も概ね目標を達成したが、残念ながら2校とも入学定員を充足することができなかった。コロナ禍により日本語学校を卒業できる留学生が激減したことが影響し、2校とも国際オートメカニック科の定員を大きく割り込んだ他、職員の退職、休業により実人員2名減員による募集活動であったため、高校訪問を十分に行うことができなかったことが要因と思われる。次年度は、募集活動の効率化を図るよう入試進路課と総務課の業務連携を推進しすべての学科において定員を充足することを期待する。

就職活動については、労働人口減少に伴う人手不足により売り手市場の状況が続いているが、企業物価の高騰等により採用を控える動きも散見され、今まで以上に企業の見込みが厳しくなっている。学生達が希望する企業に就職できるよう、日々の教育活動を通して、コミュニケーション能力(社会人としての常識含む)の向上に努めて欲しい。

最後に、ロシアによるウクライナ侵攻に伴う資源高や物価高による社会環境の変化の他、世界的なカーボンニュートラルの目標達成に向けた脱炭素社会へ加速している状況の中、指導者的立場にある教職員全員が危機意識を持ち、自身のスキルを向上させていくことが学校評価に繋がると思われる。

今後も、学生、保護者、高校や企業などの学校関係者が期待する以上の教育活動を行うため、日々研鑽努力し、教育の質向上に取り組んでいきたい。

最終更新日付	令和5年3月1日	記載責任者	岡部 剛
--------	----------	-------	------